

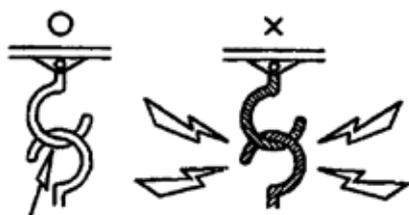
静電塗装機について知っておきたい豆知識

静電塗装機は危険？

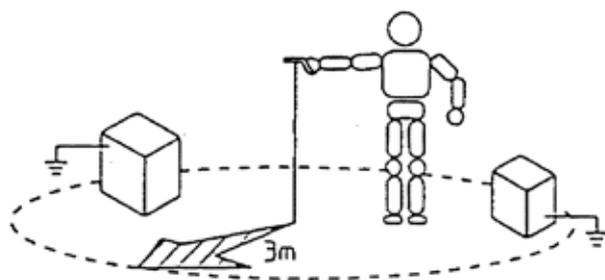
前回の豆知識 Vol.1 で紹介したグリッド式静電塗装は、被塗物が脱落した場合、電極板(或いは網状)との接触した部分から大きなエネルギーでスパークを生じ火災に繋がる危険な要素が多々起こった為、1941年初の塗料自体に直接電極部分を触れさせながら通過させ、その時に、塗料自体にマイナスの負電荷(-)を与える方法が考えられた。

負電荷(-)を持った塗料は、霧化機能の部位で負電荷(-)を持った微粒子に形成され、その静電気力を持った塗料の微粒子は、アース物体(被塗物)に付着しようとする運動が起こり静電塗着の期待が始まります。

ここで一番重要な必須条件は、「静電塗装=アース」と言う条件を十二分に満たすことが条件となります。もし、この条件が満たされないときには、危険大で且つ塗料の付着効果にも現れてきます。



塗料で汚れたコンベア、ハンガー及び、被塗物の接触部をナイフエッジ[®]または、シャープポイント形状にし、必ず金属同士を接触させてください。



静電ガンの周囲3m以内に 塗料容器、塗料供給ポンプ等、導電物を置く場合には必ずすべてアースを行ってください。プラスチックやホーロー等の絶縁体容器は、使用禁止となります。